

带状疱疹 (たいじょうほうしん)

「おびくさ」とも言われますが、皮膚の発赤と小水疱が集まって带状に現れることから、带状疱疹と名付けられました。今回は带状疱疹について解説します。



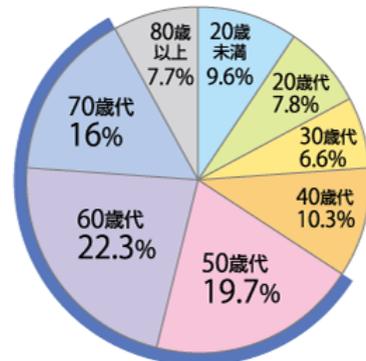
原因

带状疱疹は水痘・带状疱疹ウイルスによって起こります。このウイルスの初発感染時は水痘（水ぼうそう）として発症しますが、治癒後もウイルスは神経節の中に潜んでいます。これを潜伏感染といいます。ところが、加齢、過労によるストレスや、ガンなどの疾病により免疫力が低下すると、ウイルスが再び活動を始め、神経を伝わって皮膚に到達して、今度は、带状疱疹として発症します。



疫学

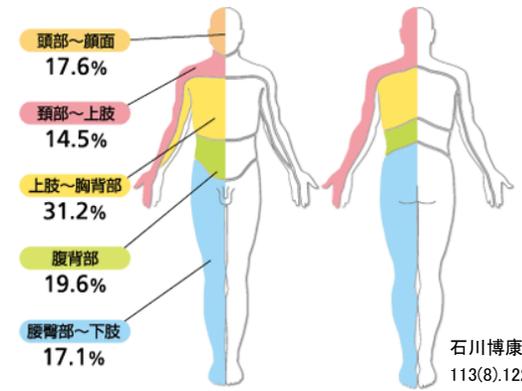
带状疱疹になった患者さん全体のうち、約7割が50歳以上で、60、70代と発症率は増加し、80歳までに約3人に1人が带状疱疹になるといわれています。しかし、残りの3割には20代～30代も含まれており、若い人でも発症する可能性があります。



(調査人数: 1,065人)
石川博康ら: 日皮会誌. 113(8).1229(2003)改変

症状

一般に、身体の左右どちらか一方の神経に沿って、発赤と小水疱の集簇が带状に現れるのが特徴で、肋間神経、坐骨神経、大腿神経、顔面の三叉神経、上腕神経領域が好発部位です。



石川博康ら: 日皮会誌. 113(8).1229(2003)改変

症状は、初めに皮膚に神経痛のような痛みが起こります。痛痒い感じで、思わず摩りたくなるような感じです。その後皮疹が出てくると、痛みが激しくなり、丁度火傷のような痛みに変わります。水疱は1週間ほどで黒いかさぶたとなり、色素沈着を残して治癒しますが、痛みは1カ月ほど続きます。

顔面の带状疱疹では、角膜炎や結膜炎、まれに耳鳴りや難聴、顔面神経麻痺などが生じることがあるので、眼科医または耳鼻咽喉科医の診察を受ける必要があります。



治療

带状疱疹の治療は、経口抗ウイルス薬で、ファムシクロビル、バラシクロビルやアメナメビルがあります。抗ウイルス薬は病気を治すわけではありませんが、带状疱疹の症状を緩和し、症状の持続期間を短縮するのに役立ちます。

急性期の痛みには、ロキソニン®などの鎮痛薬を使いますが、带状疱疹が治まった後も疼痛が続く、带状疱疹後神経痛には、リリカ®が有効です。

带状疱疹は、他の人に带状疱疹としてうつることはありません。しかし、带状疱疹の患者さんから、水痘にかかったことのない乳幼児などには、水痘としてうつる場合があります。

通常は生涯に1度しか発症しないので、再発する人は、ガンなどの免疫が低下する疾患を検索する必要があります。